

CLUSTERPRO/Windows Server Failover Clustering 環境での補足

Windows Server 2016、および Windows Server 2019 にて Standard Program Package を適用する場合、ネットワークコントローラーや Fibre Channel コントローラーに接続したストレージとの通信が一時的に途切れることがあります。

CLUSTERPRO、Windows Server Failover Clustering (WSFC)を使用している環境で Standard Program Package を適用する場合は、本書を参考にして適用してください。

1. CLUSTERPRO 環境

1. Standard Program Package を適用するサーバー（以下、対象サーバー）でグループが動作している場合は、他のサーバーに移動します。
2. 対象サーバーの CLUSTERPRO Server サービスを手動起動に変更します。
3. 対象サーバーを再起動します。
4. 対象サーバーに Standard Program Package を適用後、再起動します。
5. 対象サーバーの CLUSTERPRO Server サービスを自動起動に戻し、対象サーバーを再起動します。
6. クラスターの [プロパティ] で [自動復帰] を [しない] に設定している場合、Web Manager で対象サーバーを右クリックし [復帰] を選択します。
7. 必要に応じて、グループを移動します。

2. WSFC 環境

1. Standard Program Package を適用するサーバー（以下、対象サーバー）が所有する下記のクラスターリソースを他のサーバーへ移動します。

注）移動しないまま Cluster Service サービスを停止すると、フェールオーバーが発生して一時的にクラスターリソースが停止する場合があります。

- ・クラスターコアリソース
- ・クラスターの共有ボリューム
- ・役割

2. 対象サーバーの Cluster Service サービスのスタートアップの種類を [手動] に変更し、サービスを [停止] します。

***** メンテナンス作業開始 *****

3. 対象サーバーに Standard Program Package を適用後、リブートします。

***** メンテナンス作業終了 *****

4. 対象サーバーの Cluster Service サービスのスタートアップの種類を [自動] に変更し、サービスを [開始] します。

5. (下記の場合にのみ実施します)

フェールオーバー クラスター マネージャー画面上、対象サーバ（ノード）の状態が「検疫」状態の場合：

「検疫」状態を解消して「稼働中」状態へ復帰したい場合は、以下の手順を実施します。
(すぐに状態を解消する必要が無ければ、手順 6 へ進みます)

注) ・「稼働中」状態への復帰には、数分程度の時間を要する場合があります。

- ・「検疫」状態になった原因が取り除かれていない場合、下記の手順を実施しても「稼働中」状態に復帰できない場合があります。

5-1. 管理者権限で PowerShell コマンドプロンプトを開きます。

5-2. クラスタを構成する任意のノードから、次のコマンドを実行します。

Start-ClusterNode -ClearQuarantine "サーバー（ノード）名"

5-3. フェールオーバー クラスタ マネージャー画面にて、対象サーバー（ノード）の状態が[稼働中]になるまで待ちます。

6. フェールオーバークラスタマネージャーからクラスタの検証を実行し、検証レポートの結果欄に失敗が出力されていないことを確認します。

7. 必要に応じて、各クラスタリソースを対象サーバーへ移動します。

- ・クラスタコアリソース
- ・クラスタの共有ボリューム
- ・役割